

水産海洋学会活性化委員会主催「第1回水産海洋研究座談会」

日時：2021年1月30日（土）13:30～16:00

方式：Webによるオンライン形式（Zoom利用）

zoomを利用したウェビナーとしますので、参加希望者は、恐れ入りますが1月25日（月）までに後藤（tgoto@iwate-u.ac.jp）までメールにてお知らせ下さい。参加希望者には前日までに招待メールをお送りします。

趣旨：地球温暖化の進行に伴い、海洋においても水温の長期的な上昇傾向が認められており、近年はMHW（Marine Heat Wave）の規模増大や頻度の増加が報告され、水産資源への影響例も報告されている。一方、我が国の漁業では、南方系のサワラやブリ漁場の北への拡大と北方系のサケやホッケ資源の減少に加え、サンマ漁場の東偏化と記録的な不漁の継続などがみられている。これらの現象は、いずれも海洋環境の変化との関連性が示唆されているが、個々の資源のみに閉じたものではなく、より大きな生態系の変質に起因している可能性がある。しかし、現状では個別の事象整理が追いついていないため、生態系の変化を捉え切れていない様に感じられることから、海域ごとに生じている事例をできる限り多く集めることによって海洋環境変動に関連する生態系の変化への理解が進むことが期待される。そこで、各地の漁業現場で地域の漁業と資源・海洋事情をよく知る海洋水産学会の会員からそれぞれの情報を持ち寄り、我が国周辺海域で近年生じている海洋環境変動に対する応答の全体像を知る足がかりとしたい。

1. 趣旨説明 後藤友明（活性化委員会委員長） 13:30～13:40
2. 各ブロックからの報告
 - (1) 北海道ブロック 13:40～13:55
佐藤政俊（稚内水試）北海道周辺海域の海洋構造の長期変動と水産資源変動
 - (2) 東北ブロック 13:55～14:10
後藤友明（岩手大農）定置網の漁獲物組成からみた三陸沿岸における近年の動向
 - (3) 日本海ブロック 14:10～14:25
藤原邦浩（水産機構）日本海で特異的漁況をみせた魚たち
 - (4) 中央ブロック 14:25～14:40
澤山周平（水産機構）沿岸域における磯焼けや生物相の変化（仮）
 - (5) 瀬戸内海ブロック 14:40～14:55
高橋正知（水産機構）近年のイカナゴ資源（仮）
 - (6) 九州・沖縄ブロック 14:55～15:10
秋田 雄一（沖縄海技セ）温暖化は亜熱帯の魚にも影響を与えるか？
3. 意見交換 15:10～16:00
後藤友明